

Hobbit was 'a cretin'

「ホビット」はクレチン症だった？

Nature Vol.452 (12) / 6 March 2008

Rex Dalton

フロレス原人とされている「ホビット」が実はクレチン症だったのではないかとする見解を、オーストラリアの研究チームが発表した。しかし、インドネシアのフロレス島で見つかったこの小柄な人骨をめぐって騒動が続く中で投げられた、今回の最新の意見に対しては、もうすでに異論が出されている。その理由として特に、このオーストラリアの研究チームが、頭蓋内の空間（頭蓋腔）の鋳型（雄型）であるキャストの画像しか使っておらず、人骨の実物を一度も調べていない点が指摘されている。また、これらの人骨のキャストを作製した3人の研究者によれば、オーストラリアのチームは非常に重要な頭骨要素の1つを誤って解釈しているという。

RMIT大学（オーストラリア、メルボルン）のPeter Obendorfたちは、この頭蓋内キャストには、鼻部後方の頭蓋基部にある肥大した下垂体の印象（下垂体窩；下垂体のあった空間部分）がみられると述べている¹。彼らによると、これはこの人骨がホモ・フロレシエンシス（*Homo floresiensis*）という新種の人類ではなく、クレチン症を患っていたホモ・サピエンシス（*H. sapiens*）のものであることを示す証拠だという。クレチン症は先天性の甲状腺機能低下症であり、治療しないと患者は多くの場合、重度の発育不全となり、脳は小さく、脳下垂体は肥大する。

オーストラリアの研究チームは今回発表した説を「試験的仮説」としているものの、自分たちは「間違っていない」と思っているとObendorfは話す。彼らは現在、オリジナルの標本を調べる機

会を得ようと模索しているところだ。

しかし、フロリダ州立大学（米国タラハシー）の人類学者で、この頭蓋内キャストを最初に解析した論文²の筆頭著者であるDean Falkは、問題の下垂体窩は小さいと語る。「どうやっても彼ら（オーストラリアのチーム）の出した結論にはたどり着けない」と彼女は主張する。また、コロンビア大学（米国ニューヨーク州）の神経解剖学者でオリジナルの頭蓋のデータから作製したキャストを保有しているRalph Hollowayは、自身のキャストでも下垂体は小さいと述べている。

こうした意見の相違から、しばしば批判を受ける慣例的手法の存在が浮き彫りになる。人類学では、二次的資料を検証して対立意見を報告することが慣例的に行われており、そうした意見が多数出されると、検証可能な結果に至る道筋がよく見えなくなる。

2003年にホモ・フロレシエンシスの頭骨と部分骨格が発見³されて以来、その特徴を説明するために人類学の世界ではさまざまな説が出されてきた。1万8000年前に生きていた身長わずか1メートル余りのこの人類は、脳のサイズが現代人の4分の1で、もっと古い人類のものに近い原始的な骨格の特徴を備えている。これらが発見されたのと同じ洞窟では、石器も見つかっている。

インドネシアにおいて古人類学の第一人者であるTeuku Jacobは、当時籍を置いていたガジャマダ大学（ジョクジャカルタ）で、同僚たちと最初にこれらの人骨を分析し、この「ホビット」として知られる人類は実際は、頭部が通常

よりも小さくなる小頭症という発育障害だったと判定した⁴。

ニューイングランド大学（オーストラリア、アーミデイル）に籍を置く古人類学者のPeter Brownと考古学者Michael Morwoodは、この人骨が新種だとする自分たちの提案を固持している。Morwoodの指摘によると、元のリアンブア洞窟では12体のホビット由来の人骨が出土したが、これまでのところ頭骨は1個しか見つかっていない。Brownは、クレチン症説に対して批判的である。「私は、下垂体窩の左側部分を見たことのある地球上で唯一の人間だ」と彼はいい切り、「その部分は極めて保存状態が悪く、有意な測定を行うことは不可能だ」と語った。

2007年にはイスラエルの研究チーム⁵が、ホビットはラロン症候群とよばれる発育障害だとする論文を発表している。この研究チームもオリジナルの人骨を一度も調べておらず、その論文はFalkによって「冗談」の烙印を押された。Falkは現在、4月9～12日に米国オハイオ州コロンバスで開催される米国自然人類学会（AAPA）の年次総会で発表する反証を準備中である。

たった1個の頭骨について、その持ち主が先天性の障害をもっていたのか、それとも新種の人類なのかをめぐるとこの騒動は、おそらくもうしばらく続くだろう。■

1. Obendorf, P. et al. *Proc. R. Soc. B* doi:10.1098/rspb.2007.1488 (2008).
2. Falk, D. et al. *Science* **308**, 242-245 (2005).
3. Brown, P. et al. *Nature* **431**, 1055-1061 (2004).
4. Jacob, T. et al. *Proc. Natl Acad. Sci. USA* **103**, 13421-13426 (2006).
5. Hershkovitz, I., Kornreich, L. & Laron, Z. *Am. J. Phys. Anthropol.* **134**, 198-208 (2007).